

《覚書》ikupasuy の口舌型式再検討

北原次郎太

キーワード：アイヌ文化、宗教文化、イクパスイ、刻印

1. はじめに

本稿は、アイヌ民族が儀礼に置いて用いるヘラ状木製祭祀具（北海道方言 ikupasuy、樺太方言 ikunih）と、これに近似する祭祀具 kikeuspasuy の形態について、とくに先端に施される「舌を象徴する刻み」に注目し、こうした刻みが北海道西部にのみ存在し、北海道東部、樺太には見られないことを指摘するとともに、北海道西部域内における地域的差異を明らかにすることを目的とする。

ikupasuy と kikeuspasuy は献酒儀礼の際に用いられ、右手に一端を持って他端を酒杯の中に先端をひたしたのち、inaw に向かって、あるいは kamuy の座所に向けて祈ることで、kamuy に神酒を届けることができる、またその際に人間の祈りを補ってより適切な言葉に変えるとされる祭祀具である。口承文芸中では、祈りの場で捧げられた酒杯と kikeuspasuy が kamuy の家の神聖な窓に現れ、kikeuspasuy が語り始めて祈願の内容を伝える場面が描かれる。このように、ikupasuy は人が作った器物でありながら、それ自体が雄弁に言葉を発する神として考えられており、itaknokamuy 「よく話す神」、pasuyparunkur 「話し上手な箸」、pawasnupito 「雄弁な神」などとも呼ばれる。

アイヌ民族の周囲の民族にはいずれも献酒儀礼が見られるが、このような祭祀具はアイヌ民族にのみ見られる。文献上の初出は 1565 (永禄 8 年) 年のルイス・フロイスの書簡であり、ついで古いのは『氏郷記』に見られる天正 19 (1591) 年の記事である。実物資料としては、1999 年に発掘された上ノ国勝山館跡宮ノ沢川右岸遺跡から出土したものが最も古い。これは 1640 年の駒ヶ岳 d 火山灰の下から出土し、16 世紀末～17 世紀末の初め頃の物と考えられる。したがって、その成立が中世にさかのぼることが確実である。出土例の多くは装飾が少なく、舟形の刻みを配列した刻印、平滑に削り出した面などを持ち、後述する kikeuspasuy の形状に類似する。近代以降に見られる多様な造形や使用上の慣習がどのように形成されてきたのか。ikupasuy 変遷の歴史をたどることは、アイヌの宗教史上の重要なトピックである。

ikupasuy の先端には、しばしば窪み（多くは三角形）が刻まれる。そのような習俗を持つ地域では、これが ikupasuy の parunpe 「舌」であり、その機能を十全に發揮するために不可欠な物であると考えられてきた。いっぽう、約 1000 点¹の ikupasuy · ikunih を元に形態的研究をした F.マライニは、そのうち約 30%に口舌が見られないとし、内田祐一も十勝地方や樺太には口舌が見られない

¹ 内訳は杉山資料 585 点、札幌博物館（現北大植物園）168 点、札幌拓殖博物館 101 点（現在は北海道博物館に収蔵）マライニ自身の収集品 115 点、児玉作左衛門資料 21 点とモンタンドン、シュテレンベルグ、ヒッチコックの著作に紹介された若干の資料、当時の各集落、網走、釧路の博物館で実見した資料合わせて 102 点となっている [マライニ 1994:14]。

とするなど、こうした造形が *ikupasuy*・*ikunih* に必ずしも普遍的なものでないことはたびたび指摘されてきた。また、口舌が作られる場合にも、三角形の向きや *ikupasuy* の表面／裏面など施される部位に差異があり、あるいはしばしば穿孔されたものもあるなどその形態にはいくつかの変種があり、それがある程度地域性を反映したものであることは共通認識となっている。

この点について、最も早く具体的資料に依拠してまとめたのは河野広道の「アイヌのキケウシパシュイ」である。ただ、河野論文の主眼は、タイトルにもある通り *kikeuspasuy* の形状について整理することであり、口舌については副次的に触れられたのみである。また、これ以後、河野以外の *ikupasuy*・*ikunih* 資料について整理した論考は管見の限り見られないことから、今後の参考としてここにまとめておくものである²。

2. 先行研究

ikupasuy と *kikeuspasuy* は機能の面ではほぼ同じ祭祀具であるが、*kikeuspasuy* は装飾がほとんどなく、代わりに *kike* 「削りかけ」を有する。また、*kikeuspauy* は重要な祭神・儀礼に限って作られ、1度しか使用しない。*ikupasuy* は装飾に富み、削りかけが無く、何度も使用するものである。北海道の多くの地域で確認されているが、美幌ではこれを用いず、*inawkike* を巻き付けた *kamuynomipasuy* を用いる〔名取 1985：136〕。美幌に近い網走では、山中でクマを獲ったときには *kikeuspasuy* を用いるが、平時は使わない。*inawkike* を巻いた *kamuypasuy* も作る〔名取 1985：136〕。また河野は、樺太では *kikeuspasuy* が確認されないと述べており、名取（1985）には樺太にも *kikeuspasuy* があったことを示唆する一文があるが、例示はされていない〔名取 1985：137〕。確かに、樺太の *kikeuspasuy* の資料は現存する資料が 2 点、文献に確認できる物が 1 点³と非常に少なく、分布も西海岸に限られている。これらの地域は、*inaw* の形態においても北海道と共通する特徴を有していることから、*kikeuspasuy* の習俗も共有されていたのかも知れない。また、千島樺太交換条約によって北海道に移住した樺太アイヌのグループが再移住した地域でもあり、北海道の習俗を持ち帰った可能性も考えられる⁴。

千島については、シコタン島（シムシユ島出身者）の *kikeuspauy* が 1 例だけ残っている。形状は

² なお、本稿執筆にあたっての着想は藤村久和氏や佐々木利和氏、秋野茂樹氏、古原敏弘氏、内田祐一氏、山崎幸治氏らからの教示によって得た物であり、記して御礼申し上げる。ただしすべての文責は筆者にあることは言うまでもない。

³ 来知志の資料が 2 点（北海道博物館蔵 41401、旭川市博物館蔵 4383）現存するほか、多蘭泊の資料が金田一・杉山（1942）に紹介されている。

⁴ 同条約は 1875（明治 8）年に締結され、これにより翌年、亜庭湾一帯を中心とした約 840 名の樺太アイヌが移住した。移住者は江別市対雁で生活したがうまくいかず、石狩河口や厚田村などで漁労に従事し、日露戦前頃から帰還して行った。帰還者の中には出身地ではなく東海岸富内や西海岸多蘭泊周辺で暮らした者も多い。移住者が北海道の文化を受容した様子については、例えば千徳太郎治（1929）や知里（1944）の中に、北海道で聞いた伝承が帰島後に語られている様子が見える。

釧路・白糠の物に近く、無文である⁵。

河野（1933）から、本稿と関わりのある個所を抜き出すと次のようになる。河野は *kikeuspasuy* が *ikupasuy* の祖型であると考え、余市、忍路では特別の呼称を持たず *ikuni* と呼ぶ。

ikupasuy の先端を *etu*（鼻）と呼び「古い形式のイクパシュイには、エトウの下面に三角形の穴が」あり、*parunpe*（舌）と呼ぶ。穴は口を意味し「キケウシパシュイにはこのパルンペが舌状のキケ（ケヅリカケ）となって付いているものが少なくないがこれが三角形のパルンペの祖型である。かくパルンペには本来「口舌」を象ったものであるが、これが退化して舌状のキケを失い、三角形の穴のみになり（第一次退化型）、更に退化して象形的な意義が忘れられると、今度はイクパシュイの裏面から姿を消して、エトウの表面に表れてくる。これがパルンペの第二次退化型である。イクパシュイの頭部をしらべて見ると、三角形の穴が下にあるものも、上にあるものもあるのを不思議に思う人もあるようだが、パルンペの退化型だと判れば疑問も氷解する。このようにパルンペがイクパシュイの上面に上って来ると、も早パルンペという原語を用いる者は少くなり、イタンギ *itangi*（盃）、パシュイイタンギ、コンパ *kompa*（三角）、パシュイコンパ等と称するようになる。イタンギとは酒杯の事で、アイヌはこのパシュイ上のイタンギに酒を満して神に捧ぐるのだと称しているが、実際はイタンギを象ったものではなく、上述のようにパルンペ（舌）を象ったものの退化型なのである」としている⁶。

河野が想定した *kikeuspasuy*・*ikupasuy* の変遷を図式化すると以下のようになる。

時間的流れ	祖型	→	現在
全体の形状	<i>kikeuspasuy</i> （削りかけ有、装飾少）	→	<i>ikupasuy</i> （削りかけ無・装飾多）
口舌型式	舌状削り出し（下面）→三角刻み（下面）→三角刻み（上面）→無し <i>parunpe</i>		<i>itanki / kompa</i> ← <i>parnnpe</i>

図1．河野（1933）による *kikeuspasuy*・*ikupasuy* の変遷

次に河野は地域ごとの口舌の型式を表2のようにまとめている。表中の用語は一部改めた。また、地域グループの呼称として用いられているアイヌ語名称は、河野が墓標型式を分類した際にも用いていた便宜上の区分である⁷。

⁵ 国立民族学博物館 K0002341。鳥居龍藏収集。千島の資料はこれ1点のみで *ikupasuy* に当たる物が存在したのかは不明。

⁶ これらの説明に続けて *kike* が *rap*（羽根）とも呼ばれることから、*kikeuspasuy* は鳥をかたどったものだと述べている。J. バチェラーなども同様の見解を述べているが、これは *rap* の解釈や、*etu* が鳥のくちばしをも指すことなどからの類推であり、アイヌにそのような伝承があるわけではない。

⁷ たとえば「西エンヂウ」という名称は、余市周辺の人々の自称ではない（*enciw* という言葉を知っていたかどうかかも疑問である）。また、「シュムクル」と「メナシクル」は、*sumunkur*、*menasunkur* を「略して」用いたものである。こうした呼称が太平洋岸の人々によって用いられてきたことが確認されているが、それらが指し示す地

地域グループ	コタン（集落）	口舌
西エンヂウ	余市（違星）	舌状削り
	余市（西村）	舌状削り
	忍路（無江）	舌状削り
サルンクル	ウサクマイ（今泉）	舌状削り
	ランコシ	舌状削り
	白老（宮本）	舌状削り
	白老（熊坂）	無し
	沙流川沿岸？	—
	平取？	下面
	二風谷	無し
	累標（森本）	無し
北海道西部（シュムクル）	長万部	—
	国縫	—
上川（ペニウンクル）	近文（川村イタクシロマ）	上面
	近文（川村ランケトク）	無し
北海道東部ア（メナシクル）	白糖（時田伊平）	無し

表1 河野（1933）による kikeuspasuy 口舌型式の地方差

余市町より南の日本海沿岸の資料は他の研究者の資料を含めてもごくわずかであり、忍路の資料が得られたことは大変貴重である。また、白老町の中に舌状の削りかけを持つ例と、一切の加工をしない例が見られる。白老地域のアイヌには、沙流川付近から移住してきた家系とそれ以前からの家系が混在しており、この付近も言語・文化におけるいくつかの境界にあたる。kikeuspasuy の舌型式も、

域と、河野がその言葉を用いて指した地域は異なっている。たとえば河野自身が「シュムクル」は松前付近や余市の住人をも指しうるが、自身の整理によって「此等の地方のアイヌは西エンヂウ系のものと信ずる」という理由から除外したと述べている。また、新ひだか町静内付近は東西の様々な言語的・文化的境界にあたり、同じ町内に sumunkur と menasunkur の別が意識されている。ところが、sum と menas の境界に当たる同地は、河野の整理によればサルンクルに加えられている。sarunkur は日高西部の沙流川流域の住人だが、河野は文化的特徴などから「同一系統に属する」と判断して、室蘭から静内までを全て「サルンクル」としている。sum と menas は「西」と「東」のような広い地域を指すものであり、sar 「沙流」や tokapci 「十勝」、kusur 「釧路」などはより下位の地域区分に当たるもので、両者を同列に扱うことは適当ではない。また、当事者間で意識されてきた境界とは別に、客観的特徴によって地域を区分することはもちろん意義のあることだが、仮説的に設定した地域集団を既存の呼称で呼ぶことは混乱の一因ともなり、今後改められるべきであろう。本稿での整理にあたっては、現行の地方名に準じてグループ分けを行った。

こうした状況を映しており興味深い。

河野（1933）が発表された後も、河野自身や他の研究者によって資料収集が継続され、総量は増加している。また、同論文では ikupasuy の地域性については触れられていないが、収集品の総数は ikupasuy の方が多い。旭川市博物館が 2006 年に刊行した『旭川市博物館収蔵品目録 XVI—民族資料／儀礼関係：捧酒箸—』では双方を合わせて一覧を作成している。その一覧から、口舌の型式ごとデータを抜き出し表 2 にまとめた。

口舌なし	八雲 (KP1 本中 0、IP3 本中 0)、室蘭 (IP1 本中 0)、 <u>穂別和泉 (ルベシベ)</u> (KP1 本中 0)、浦河姉茶 (KP1 本中 0)、様似岡田 (IP1 本中 0、UP2 本中 0)、足寄 (IP1 本中 0)、十勝 (IP1 本中 1)、白糖 (KP1 本中 0)、屈斜路 (IP1 本中 0)、小樽 (IP1 本中 0)、名寄 (IP1 本中 0)、多蘭泊 (IP3 本中 0)、来知志 (KP1 本中 0)、白浜 (IP5 本中 0)、落帆 (IP5 本中 0)、富内 (IP1 本中 0)、樺太 (IP11 本中 0)
口舌裏	幌別 (IP3 本中 2)、白老 (KP2 本中 1、IP5 本中 3)、白老社台 (IP1 本中 1)、鶴川春日 (KP1 本中 0、IP1 本中 1)、穂別イナエップ (KP1 本中 1)、穂別富内 (ヘトナイ) (UP2 本中 2)、沙流 (KP1 本中 1)、平取二風谷 (KP3 本中 1)、新冠 (IP1 本中 1、UP2 本中 1)、静内 (IP3 本中 3、UP1 本中 1)、静内農屋 (IP1 本中 1)、静内ロコマップ (IP1 本 UP3 本計 4 本中 3 本)、静内東別 (IP1 本中 1)、三石 (IP3 本中 1)、日高 (IP1 本中 1)、 <u>西帶広伏古</u> (IP4 本中 2 本)、 <u>釧路</u> (IP6 本中 1、UP2 本中 1)、余市 (KP4 本中 4)、忍路 (KP1 本中 1)、浜益※ (KP3 本中 3)、千歳鳥柵舞 (KP1 本中 1)、旭川※ (UP2 本中 1)、
口舌表	浜益※ (UP1 本中 1)、旭川※ (KP32 本中 17、IP17 本中 3)、

表 2 旭川市博物館収蔵捧酒籠の内訳 KP=kikeuspauy, IP=ikupasuy, UP=ussipasuy (漆塗)

※印がついているものは、複数の型式がある

表中、下線で示した個所は、本稿で参照した資料とは異なる結果を示している箇所である。このような相違がでる理由としては、①地域の中にも家系による慣習の違いがあり地域間の比較の際、どの家系に注目するかによって結果が変わる、②捧酒籠は譲渡されることがあるため、譲渡先の地域とは異なる型式を持ったものが混入する、といったことが考えられる。

3. 資料

本稿では、収集年代・地域の明らかな資料を観察・比較し、地域的傾向を見るこにすることにする。資料としたのは、北大植物園が収蔵する ikupasuy および kikeuspauy、市立函館博物館が収蔵する

ikupasuy／ikunih、新ひだか町博物館が収蔵する ikupasuy である。これらの機関の収蔵品の内、収集地が明確な物を中心に検討した。筆者が実見していない資料については荻原眞子氏・小谷凱宣氏・古原敏弘氏ほかによる共同調査「北海道内の主要アイヌ資料の再検討」の成果を参照している。

このほか、まとまったコレクションとしては旭川市博物館に収蔵されている河野広道コレクションがあり、同館の資料目録に

4. 分析結果

対称とした 510 点について文末の表にまとめた。ここから、以下のことが指摘できる。

・権太の ikunih には、わずかな例外を除き口舌を作らない。権太の資料 238 点（北大 6 点、函館 232 点）中、口舌を持つものは 2 点のみである。2 点とも登富津集落の資料であり、1 点は表、1 点は裏面と型式も不一致であることから、これは北海道からの帰還者／移住者が偶発的に持ち込んだものと考えることも可能である⁸。なお、函館の資料には、裏面先端に鉛筆、ペン、または線刻で「タ」、「T」、「落」等と記したものがある。これはいずれも「タランドマリ」または「タライカ」、「トウツ」、「落帆」の頭文字であり、収集・整理過程で加えられた物と見ることができる。

また、本稿の議論からは外れるが、権太の資料には、シャチの背鰭をかたどったとされる aspe 印が 3 例しか見られない。北海道においてはごく一般的な印であることと対照的である。

・十勝、釧路、北見、天塩地方も、わずかな例外を除き口舌を作らない。名寄で口舌を持つ物が 2 例あるが、これは鶴川からの移住者の作だと考えられる。

・石狩流域では中流域から河口付近にかけては口舌を作らない。旭川市近文には口舌を表面に刻む家系と作らない家系が混在している。

・日本海沿岸地域の小樽の資料は、増毛への移住者が製作したものである。ikupasuy の裏面には口舌（三角形）を刻み、kikeuspasuy には作らない。余市では、kikeuspasuy の裏面には舌状の削りかけを削り出し、ikupasuy には何も作らない。

・日高地方東部は文化的境界地域にあたり、浦河付近まで ikupasuy には三角形を、kikeuspasuy には何も施さない。今回の資料には入っていないが、様似では ikupasuy にも口舌を作らない。

・日高地方西部（新冠から沙流川流域）から胆振東部では ikupasuy・kikeuspasuy の裏面に口舌を作り出すことが一般的で、この点は河野（1933）に示された沙流川流域の傾向とは異なる。沙流川河口付近では、ikupasuy には三角形、kikeuspasuy には舌状削りかけを施す。

・胆振地方東（鶴川・厚真・千歳）のうち、鶴川、厚真では ikupasuy には三角形、kikeuspasuy には舌状削りかけを施す。

・胆振地方西部（白老）も文化的な境界にあたり、鶴川等に近く kikeuspasuy に舌状削りを施す家

⁸ 脚注 4 を参照。

系と、表面に点を穿つ家系がある。ikupasuy は裏面に三角形を刻むことが多いが、表面に刻む、あるいは貫通する例もある。何も作らない例も若干ある。

・噴火湾地域では、室蘭から虻田にかけては、kikeuspasuy、ikupasuy とも表面に刻みをつける傾向が強く、長万部から八雲にかけてはいずれも口舌を作らない傾向が強くなる。

当初、同じ家系で作られる kikeuspasuy と ikupasuy は、口舌の作り方等は共通しているものと予想していたが、実際にはいくつかの地域で異なる傾向が見られた。これに対し、ikupasuy に口舌を作らない地域では kikeuspasuy にも何も作らない。このことから、まず、北海道西部と東北部・樺太の間に大きな文化的差があり、さらに西部の中でも kikeuspasuy と ikupasuy では異なった変遷をたどったことがうかがえる。事例が少ないために、こうした傾向がどこまで確実視できるのかが問題であるが、アイヌ社会内における両者の位置づけを考える上で大変示唆的である。ikupasuy に比べ、kikeuspasuy が使われる場面はより正式な場面であり、同じ家系に属する参列者が同席する機会も多い。また、年に数度という頻度で作られることもあり、家系共有の習俗が維持されやすいのかも知れない。

おわりに

ikupasuy に施される口舌は北海道に固有の要素であり、さらに石狩川流域から日高までを結ぶ線より西に偏る物であることが明確となった。また、そのうち白老から虻田にかけての南西部と、石狩上流では口舌を表面に刻み、鵡川から東では裏面に刻む傾向が強くみられた。つまり、表面に刻まれるケースは、口舌の分布域をさらに2分する広い地域にわたって見られることになる。従来、ikupasuy の口舌といえば裏面に刻まれる物と思われてきたのは、そうした記述の依拠する資料に偏りがあったということである。

興味深いのは千歳と新十津川の傾向である。石狩上流は表面に口舌を刻む地域だが、千歳は石狩流域であり名が裏面に刻んでいる。また、千歳と石狩上流に挟まれた新十津川では、ikupasuy に何も刻まない。こうした傾向は、口舌を裏面に刻む沙流川流域から千歳へ、口舌を刻まない十勝地方から空知地方への移住があったとするアイヌ社会内の伝承と合致する。また、石狩上流と有珠、虻田など噴火湾沿岸域で、ともに ikupasuy 上面に刻みを持つ家系があるのも興味深い。名取武光は岩内や余市などの日本海沿岸南部と噴火湾の間での移住、および天塩など日本海沿岸北部から余市への移住があつたことを述べている〔名取 1987 (1959) : 96-97〕。

ikupasuy に口舌を刻む習俗はいつごろ確立されたのか。分布から見れば比較的新しい現象であり、また裏面と表面の分化はより新しいという見通しを持つことができる。冒頭で触れた最古の ikupasuy にも口舌が無いことが注目されるが、同資料の出土地は渡島半島の日本海沿岸に位置し、近代の時点においても口舌が施されない地域に隣接する。したがって、この時点でより口舌文が存在

しなかつたと断定する素材とはならない。北海道西部の遺跡からの出土例が増加することが待たれる。

いまひとつ興味深いのは、削りかけと印を、相互に代替可能なものとする証言のあったことである。北大植物園 17732（浜益）には「沖用、キケ1つなら印ゐる、キケ2つならゐらない」とする注記がある。「沖の神を祭る際に用いるもので、削りかけを2か所または1か所と印を作る」と解釈できる。

これに類するものとして、八雲などの inaw にも ponrapsirosi 「小さい羽根の印」と呼ばれる物が確認されていた。また、樺太来知志では pinneinaw 「男性のイナウ」には刻印を、mahneinaw 「女性のイナウ」には削りかけを施す。削りかけと印にこのような代替性があるとすれば、口舌が削りかけや刻印の形をとりつつ同一の機能を持つ物と見なされることも了解できる。今後の課題としたい。

参考文献

旭川市博物館

2006 『旭川市博物館収蔵品目録 XVI—民族資料／儀礼関係：捧酒箸—』。

内田祐一

2006 「第 11 章 イクパスイの機能についての一考察」『アイヌ文化と北海道の中世社会』

北海道出版企画センター。

金田一京助・杉山寿栄男

1993(1942) 『アイヌ芸術 木工編』 北海道出版企画センター。

河野広道

1971 (1931) 「墓標の型式より見たるアイヌの諸系統」『河野広道著作集 I 北方文化論』

北海道出版企画センター。

1971 (1933) 「アイヌのキケウシパシュイ」『河野広道著作集 I 北方文化論』 北海道出版企画センター。

千徳太郎治

1980(1929) 『樺太アイヌ叢話』(『アイヌ史資料集』6 樺太編に再録)、北海道出版企画センター。

知里眞志保

1973a(1944) 「樺太アイヌの説話 (一)」『知里眞志保著作集』1 平凡社。

名取武光

1985 『アイヌの花矢と有翼酒箸』六興出版。

1987(1959) 「樺太・千島のイナウとイトクパ」『北方文化研究報告』第 7 冊 思文閣出版。

フォスコ・マライニ著、ロレーナ・スタンダールディ訳

1994 『アイヌのイクパスイ Gli iku-bashui degli Ainu』財団法人アイヌ民族博物館。

(きたはら じろうた・北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授)

note

Re-examination on a type of tongue of ikupasuy

KITAHARA Jirota

Summary :

Each Ikupasuy and kikeuspasuy often has a small mark regarded as its tongue. Each region has several types. Some have the tongue on the upper side, and some have it on the lower side, or nothing. The examples of the type from each region will be shown in this paper.

表3

・「分類」の略称はIP→ikupasuy、KP→kikeupsasuy。

・前方/後方印は線→沈線(刃物を押し当てた切り込み線)、舟→葉研彫りで舟形に刻んだ印

・口舌の形状は、△→山形の切り込み、△→先端を向いた三角形、▽→後端向きの三角形

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考
十勝地方									
北大植物園	17735	毛根	IP	3線5舟	3線5舟	—	—	中山浅吉	ケネ
北大植物園	17776	音更	KP	2線2舟	2線2舟	—	—	中村要吉作	
北大植物園	10114	音更	IP	3線3舟	2線1舟	—	—	中村要吉	
北大植物園	17759	帶広伏古	KP	3線5舟	3線5舟	—	—	古川コサンケアン ⁶⁸ 才	文様入り
北大植物園	17765	帯広伏古	KP	3線4舟	3線4舟	—	—	古川コサンケアン ⁶⁸ 才	
釧路地方									
北大植物園	9589	阿寒	IP	3線4舟	—	表	丸	土佐藤太郎	1933.8.5日
北大植物園	17675	阿寒	KP	—	—	—	—	音吉作	
北大植物園	10158	虹別	IP	3線3舟	3線5舟	—	—		
北大植物園	17678	厚岸	KP	2線2舟	2線2舟	—	—	アラヤエカシ作	
北大植物園	17715	厚岸	IP	2線2舟	—	X	1線		
北大植物園	17720	厚岸	KP	—	2線2舟	—	—	アラヤエカシ作	1935.9.20
北大植物園	17755	厚岸	IP	2線2舟	2線X1線	—	—		
北大植物園	9538	釧路春採	KP	3線4舟 +aspe	3線4舟	—	—	結城總太郎	1937年
北大植物園	17738	釧路市春採	KP	3線4舟 +aspe	3線4舟	—	—	結城總太郎	1935年11月23日、作者名
北大植物園	17750	屈斜路	KP	3線4舟	3線4舟	—	—	伊藤鹿六作	クッチャロ
北大植物園	17752	屈斜路	KP	3線4舟	3線4舟	—	—	伊藤鹿六	
北大植物園	17768	屈斜路	KP	3線4舟 +aspe	3線4舟 +aspe	—	—	弟子小太郎	昭和13年、「8」
北大植物園	17754	白糠	KP	3線5舟	3線5舟	—	—	時田伊平	作者名、「3」
北大植物園	17763	白糠	KP	3線5舟	3線5舟	—	—	時田伊平	
北大植物園	9536	塘路	KP	3線4舟 +aspe	—	—	—	島太郎作	昭和十年
北大植物園	17777	塘路	KP	3線4舟 +aspe	2線	—	—	島太郎	1935.10月 作者名
北見地方									
北大植物園	17731	網走	IP	3線3舟	2線2舟	—	—	網走アイヌ	

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
北大植物園	17743	網走(モヨ口)	KP	3線4舟	3線4舟	—	—	工藤貞助	作者名、「2」	
北大植物園	17779	網走(モヨ口)	KP	3線4舟	3線4舟	—	—	工藤貞助83歳	1936年(米村)、作者名、「2」	
市立函館博物館	594	北見	IP	3線4舟	—	—	—			317
天塩地方										
北大植物園	11030	シホロ	IP	—	—	—	—	武倉家	17775と模様同じ	
北大植物園	17775	シホロ(天塩)	IP	3線3舟	3線3舟	—	—	武倉家	teseukuru、11030と模様同じ	
北大植物園	17747	ナヨロ	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△		知氏、ナヨロアイヌ作 作者名不明	
北大植物園	17760	ナヨロ	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△		ナヨロのアイヌ作(ムカワより移住したアイヌの作ならん)、矢口氏	
北大植物園	17766	ナヨロ	KP	3線	3線	—	—	北風礎吉	作者名、「2」	
石狩地方										
北大植物園	10080	上川	IP	3線5舟	3線5舟	表から 貫通	▽		明治23年12月8日	
北大植物園	9550	近文	IP	3線4舟	3線4舟	表	△	間宮家	河野廣道氏寄贈	
北大植物園	9583	近文	IP	3線4舟	3線4舟	表	△	間宮家	河野廣道氏寄贈	
北大植物園	17713	近文	KP	3線4舟	3線4舟	表	▽	イタキシルマ	1935年3月28日、作者名、「2」	
北大植物園	17744	近文	KP	3線4舟	3線4舟	表	▽	イタキシルマ	1935年3月28日、作者名	
北大植物園	24690	近文	KP	3線3舟		裏	舌状 削り?	川村カネト	1952.3.20、作者名	
北大植物園	17740	近文	KP	2線2舟	2線2舟	—	—	村山カイカウック	作者名、佐々木氏寄贈	
北大植物園	17781	近文	KP	3線4舟	3線4舟	—	—	村山カイカウック	1935年4月、佐々木氏寄贈、「2」	
										
北大植物園	17707	近文	IP	3線3舟	3線3舟	—	—	川村ランゲトク家		
北大植物園	17746	近文	IP	3線3舟	3線3舟	—	—	川村ランゲトク家	近文 名取	
北大植物園	17774	近文	IP	3線3舟	3線3舟	—	—	川村ランゲトク家	名取	
										
北大植物園	17690	泥川	KP	3線3舟	3線3舟	—	—	カバカンタロウ	作者名(17690と同じ)	

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
北大植物園	17704	泥川	KP	3線3舟	3線3舟	—	—	カバカンタロウ	作者名(17704と同じ)	
北大植物園	17783	泥川	KP	3線3舟	3線3舟	—	—	カバカンタロウ	作者名、木皮舟を作る時のもの	
北大植物園	32983	新十津川	KP	3線3舟	3線3舟	—	—	空知保	裏面に2家系の印の図(鉛筆書き)、作者名	
北大植物園	17721	新十津川 (近文)	KP	3線3舟	3線3舟	表	くぼみ	空知信二郎	1933.3.10、作者名、kikepashui、小ラベル「2」	
北大植物園	9539	バラト	KP	3線5舟	3線5舟	—	—	能登酉雄作	1935.10.28日	
北大植物園	17714	バラト	KP	4線3舟	3線4舟	—	—	能登酉雄作	作者名、大井君寄贈	
日本海沿岸										
北大植物園	17729	小樽(浜益毛)	KP	3線4舟	—	—	—	山下三五郎	1935年 作者名、小ラベル「1」	
北大植物園	17730	小樽(浜益毛)	KP	3線5舟	—	—	—	山下三五郎家 天川家	濱増毛 山下家と天川家に共通?	
北大植物園	17732	小樽(浜益毛)	KP	3線5舟	—	—	—	山下三五郎	沖用、キケ1つなら印ゐる、キケ2つならあらない、作者名、「2」	
北大植物園	17751	小樽(浜益毛)	IP	2線3舟	—	裏	△	山下	蛇が巻き付く意匠	
北大植物園	17753	小樽(浜益毛)	KP	3線5舟	弧線	裏	△	山下三五郎	1936年6月27日、作者名、「1」	
北大植物園	17761	小樽(浜益毛)	KP	3線5舟	弧線	裏	△	山下三五郎	1936年7月27日、作者名、「3」	
北大植物園	17762	小樽(浜益毛)	KP	3線5舟	—	—	—	天川家の物 山下三五郎代作	沖用、作者名、浜増毛のものを代作した	
北大植物園	9537	余市	KP	3線3舟	3線3舟	裏	舌状削り	イボシ家		

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
北大植物園	17695	余市	KP	3線3舟	3線3舟	裏	舌状削り	西村玉三郎	1935.10.28日	
北大植物園	17710	余市	KP	3線3舟	3線3舟	裏	舌状削り	西村玉三郎	1935年11月、作者名、「1」	
北大植物園	17711	余市	KP	3線3舟	3線3舟	裏	舌状削り	イボシ		
北大植物園	17712	余市	IP	3線3舟	3線3舟	—	—	達星作	1934 白木、17728と同じ模様、裏面印は異なる、10155の摸刻？	
北大植物園	17717	余市	KP	3線3舟	3線3舟	—	—	イボシ		
北大植物園	17719	余市	KP	3線3舟	3線3舟	裏	舌状削り	イボシ		
北大植物園	17733	余市	KP	3線3舟	3線3舟	裏	舌状削り	イボシ		
北大植物園	17741	余市	KP	3線3舟	3線3舟	裏	舌状削り	イボシ		
北大植物園	17742	余市	KP	3線3舟	3線3舟	裏	舌状削り	達星		1935年11月
北大植物園	17757	余市	IP	3線5舟	3線5舟	—	—	達星作	1935年、白木、10165の摸刻？Itokpaも同じ	
北大植物園	17764	余市	KP	3線3舟	3線3舟	—	—	達星家		
北大植物園	17767	余市	KP	3線3舟	3線3舟	裏	舌状削り	イボシ		
北大植物園	17770	余市	IP	—	—	—	—	達星	1935、白木、古い資料(10154)の摸刻？	
北大植物園	17785	余市	KP	3線3舟	3線3舟	裏	舌状削り	イボシ		
北大植物園	17728	余市？	IP	3線3舟	3線3舟	—	—	達星？	白木、17712と同じ模様、裏面印は異なる、10155の摸刻？	
北大植物園	17758	余市？	IP	3線3舟	3線3舟	—	—		白木、表面印、裏面印と作風が17712、17757などに似る、10176の摸刻？Itokpa、裏面印も同じ	
北大植物園	10154	余市？	IP	3線3舟	3線3舟	—	—	17712、17720の原資料？		

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考
北大植物園	10155	余市？	IP	—	—	—	—	17770の原資料？ Itokpa、裏面印も同じ。	
北大植物園	10165	余市？	IP	3線5舟	3線5舟	—	—	17757の原資料？ Itokpaも同じ。	
日高地方東部									
北大植物園	17778	浦河町荻伏	KP	3線	3線	—	—	浦河・荻伏アイヌ作	「8」 Onihushi(墨書)
北大植物園	32904	浦河町荻伏 字野深	IP	4線11舟	3線6舟？	表から 貫通	▽		1955.12月
北大植物園	32905	浦河町荻伏 字野深	IP	4線6舟	3線4舟	—	—		1955.12月
新ひだか町博物館	9727	浦河？	IP	3線5舟	3線5舟	裏	△		
新ひだか町博物館	10289	浦河？	IP	3線5舟	3線5舟	裏	△		
北大植物園	17696	三石村字幌毛	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△		作者名不明
新ひだか町博物館	680	静内	IP	—	—	裏	△		
新ひだか町博物館	677	静内	IP	—	—	裏	△		
新ひだか町博物館	7679	静内	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△		
新ひだか町博物館	1018	静内	IP	3線5舟	2線3舟	裏	△		
北大植物園	17687	静内田原	KP	3線4舟	3線4舟	—	—	原島袖三	

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
市立函館博物館	584	日高静内	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△			307
市立函館博物館	586	日高	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△			309
市立函館博物館	587	日高	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△			310
市立函館博物館	589	日高	IP	3線	3線	裏	△		中央に3沈線	312
日高地方西部										
北大植物園	10070	新冠	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△	淵瀬徳市		
北大植物園	10085	新冠	IP	3線5舟	3線5舟	裏	△	淵瀬徳市		
北大植物園	10092	新冠	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△			
北大植物園	10095	新冠	IP	3線3舟	3線	裏	△	淵瀬徳市		
北大植物園	10131	新冠	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△	淵瀬徳市		
北大植物園	10144	新冠	IP	2線	2線	裏	△	淵瀬徳市		
北大植物園	17661	オーコツナイ イ	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△		オーコツナイ	
北大植物園	17702	オーコツナイ イ	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	オーコツナイ テッカリ キン。ボロサルのリキ ゾウと同型		
北大植物園	10113	沙流	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△		年号判読できず	
北大植物園	10159	沙流	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△		●年三月 沙流	
北大植物園	17656	沙流？	KP	3線3舟	3線3舟	裏	舌状 削り		北大植物園蔵の古品・Heperesachiepに付けてあつた削箸、シサルシクルの祖印に近似	
北大植物園	17725	沙流郡福満 村(=平賀)	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	平賀ヤヤシ代作	ピラカコタンの祖印 福満=平賀	
北大植物園	17677	沙流ピラカ	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	ヤヤシノアシ		

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
北大植物園	17672	平取村字ビラカ	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	ナベサワモゾウ		
北大植物園	17684	平取村字ビラカ	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	tuarekuru トアレクル		
北大植物園	17667	佐留太村ビタルバ	KP	3線3舟	3線3舟	裏	舌状削り	平野トリマシクル		
北大植物園	17671	ビタラバ	KP	3線3舟	3線3舟	裏	舌状削り	モンベツセンジロウ作		
北大植物園	17697	ビタラバ	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	ヒラノイモンカウク作	旧ビタラバ住人	
北大植物園	17660	紫雲古津	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	motopira		
北大植物園	17680	紫雲古津	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	イクチサマ		
北大植物園	17705	紫雲古津	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	アリカントク		
北大植物園	17739	紫雲古津	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	鍋澤エクツチヤ	代作	代作
北大植物園	17686	平取去場	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	ponrekte	ポンレクテ	
北大植物園	17773	平取去場	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	平目カメンゾ(カメゾウ)		
北大植物園	17668	荷葉	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	ラベウエカシ		
北大植物園	17703	荷葉	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	ニナト ^ン さん		
北大植物園	17689	ニナチミ	KP	3線3舟	3線3舟	—	—	sakanrek	サカンレック	
北大植物園	17652	平取	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	シビカンチャラ		
北大植物園	17655	平取	KP	3線3舟	3線3舟	裏	舌状削り		平取アイヌ作 作者不明	
北大植物園	17659	平取	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	keurumekara		

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
北大植物園	17663	平取	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	マサレックル		
北大植物園	17665	平取	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	アトッコ attoko		
北大植物園	17669	平取	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	tununkauk 卜 ^ト ヌンカウク		
北大植物園	17670	平取	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	isonratok イソンラトック		
北大植物園	17673	平取	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	エイコノウク作		
北大植物園	17681	平取	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	サンゲア		
北大植物園	17683	平取	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	マサレックル		
北大植物園	17685	平取	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	平村栄吉		
北大植物園	17688	平取	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	kanturka カントルカ		
北大植物園	17691	平取	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	チャレアマ(コタンビラの祖父)		
北大植物園	17692	平取	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	シビカンチャラ		
北大植物園	17693	平取	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	平村エイコノウク	遠祖フモシリシ	
北大植物園	17701	平取	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	バレカナの祖印、チャレアマと同系同型		
北大植物園	17748	平取	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	平村バワシヌレ(=キンタ)	字ビラトリ	
北大植物園	17769	平取	KP	3線3舟	3線3舟	—	—	作者は平村ならず	口舌欠	
北大植物園	9532	二風谷	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	二風谷 平村家		
北大植物園	10535	二風谷	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	カイザワウエサナシ		
北大植物園	17651	二風谷	KP	3線3舟	3線3舟	—	—	貝澤松治		
北大植物園	17653	二風谷	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	カイザワウエサナシ		

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
北大植物園	17658	二風谷	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	イソンノアシエカン		
北大植物園	17662	二風谷	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	チャリヌンゲ作=兵治 charinumge		
北大植物園	17666	二風谷	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	シラベノウ作		
北大植物園	17679	二風谷	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	コンデラム作 コンデ ラムの弟 伊代松		
北大植物園	17694	二風谷	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	貝澤賢吉		
北大植物園	17706	二風谷	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	tupareasi ト・パレア シ		
北大植物園	17676	貴氣別	KP	3線3舟	3線3舟	裏	壅み	ウルンバセ作		
北大植物園	17682	ペナコリ	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	サノウクノ	昭和14年9月名取	
北大植物園	17727	ペナコリ	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	川上サノウク		
北大植物園	17749	ペナコリ(荷 負)	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	川上サノウク	ペナコリ 荷負	
北大植物園	17654	ボロサル	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	ホシビ家		
北大植物園	17700	ボロサル	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	カヤノユーカシテ作	昭和14年9月二十日 名取	
北大植物園	17716	ボロサル	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	カヤノリキゾウ	1939.10.31 Coll.Natori	
市立函館博物館	562	日高・ボロ サル	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		前の印の次にaspe2つ	285
北大植物園	17699	荷負本村	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	イムナリエカシ作		
市立函館博物館	563	日高荷負	IP	3線3舟	4線	裏	△			286
市立函館博物館	564	日高荷負	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△		鉛筆書きがあるが判読できず	287
市立函館博物館	565	日高荷負	IP	3線5舟	3線5舟	裏	△		前の印の次に×と33線を組み合わせた印	288

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
市立函館博物館	566	日高荷負	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△		中央に沙流川のkikeuspasuyのような印(横円の前後に3線)	289
市立函館博物館	567	日高荷負	IP	3線5舟	3線5舟	裏	△			290
市立函館博物館	568	日高荷負	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△			291
市立函館博物館	569	日高荷負	IP	2線2舟	—	—	—			292
市立函館博物館	570	日高荷負	IP	2線2舟	2線2舟	—	—			293
市立函館博物館	571	日高荷負	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△			294
市立函館博物館	572	日高荷負	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△			295
市立函館博物館	573	日高荷負	IP	?	—	—	—			296
市立函館博物館	574	日高荷負	IP	3線5舟	—	裏	△			297
市立函館博物館	575	日高荷負	IP	3線3舟	—	裏	△			298
市立函館博物館	576	日高荷負	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△			299
市立函館博物館	577	日高荷負	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△			300
市立函館博物館	578	日高貴氣別	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△			301
市立函館博物館	579	日高貴氣別	IP	2線山型	—	裏	△			302
市立函館博物館	580	日高貴氣別	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△			303
市立函館博物館	581	日高貴氣別	IP	2線3舟	—	貫通	▽			304
市立函館博物館	582	日高貴氣別	IP	2線2舟	—	?	?			305
市立函館博物館	583	日高貴氣別	IP	3線舟5	3線舟5	裏	△			306
胆振地方東部										
北大植物園	17722	鶴川村(チン)	KP	3線3舟	3線3舟	裏	横線(舌状削り)	新井田バスイテカン	作者名、小ラベル「5」	

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
市立函館博物館	518	鶴川・チン	IP	2線2舟	2線3舟	表	▽			241
市立函館博物館	519	鶴川・チン	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△			242
市立函館博物館	520	鶴川・チン	IP	3線5舟	3線5舟	裏	△			243
市立函館博物館	521	鶴川・チン	IP	3線9舟	3線9舟	両面	△			244
市立函館博物館	522	鶴川・チン	IP	削り取つ た?	3線(削りとつ た?)	裏	△			245
市立函館博物館	523	鶴川・チン	IP	3線5舟	3線5舟	裏	△			246
市立函館博物館	524	鶴川・チン	IP	3線3舟	—	裏	△			247
市立函館博物館	525	鶴川・チン	IP	3線3舟	3線3舟	裏	?			248
市立函館博物館	526	鶴川・チン	IP	3線4舟	3線5舟	裏	△			249
市立函館博物館	527	鶴川・チン	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△			250
市立函館博物館	528	鶴川・チン	IP	3線3舟 (削り取つ た?)	3線3舟	裏	△		竹製	251
市立函館博物館	529	鶴川・チン	IP	3線5舟 (削り取つ た?)	2線2舟	先端 欠	—		先端が欠損して、再整形している	252
市立函館博物館	530	鶴川・チン	IP	3線3舟	3線3舟	裏?	?		先端が欠損しているが舌があるように見える。	253
市立函館博物館	531	鶴川・チン	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△			254
市立函館博物館	532	鶴川・チン	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△			255
市立函館博物館	533	鶴川・チン	IP	3線3舟	3線3舟	?	—		地域の表示の判読が困難。「口鳥」に「川」。裏面先 端にラベルあり。	256
市立函館博物館	534	鶴川・チン	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△			257
市立函館博物館	535	鶴川・チン	IP	3線3舟	—	裏	△			258
市立函館博物館	536	鶴川・チン	IP	3線3舟	3線3舟	—	—		裏面先端大きく剥離	259
市立函館博物館	537	鶴川・チン	IP	3線5舟	3線5舟	裏	△			260
市立函館博物館	538	鶴川・チン	IP	3線5舟	削り取つた?	裏	△			261

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
市立函館博物館	539	鶴川・チン	IP	3線5舟	3線5舟	裏	△			262
市立函館博物館	540	鶴川・チン	IP	3線5舟	3線5舟	裏	△			263
市立函館博物館	541	鶴川・チン	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△			264
北大植物園	17657	厚真村東老 軽舞村	KP	3線3舟	3線3舟	裏	横線		ラベル「北大博物館蔵 古品」小ラベル「7」	
北大植物園	17724	厚真村東老 軽舞村	KP	3線3舟	3線3舟	裏	横線 (舌状 削り)		ラベル「北大博物館蔵 古品」、ラベル「イクバシュー 熊祭に際し特に製造せしものを用ゆ 厚真村東老軽 舞村 採集明治44年5月7日」、小ラベル「7」	
北大植物園	9534	厚真村幌内	KP	3線3舟	3線3舟	裏	舌状 削り	伊藤シトマンマトク氏	1935.1.4日	
北大植物園	17734	厚真村幌内	KP	3線3舟	3線	裏	舌状 削り	伊藤シトマンマトク	1935.2.4.、作者名、小ラベル「7」	
北大植物園	9533	千歳市鞠柵 舞	KP	3線	3線	裏	舌状 削り	小山田菊次郎	1935.1月	
北大植物園	10536	千歳市鞠柵 舞	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	今泉柴吉		
北大植物園	10536	千歳市鞠柵 舞	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	今泉柴吉	1936年6月20日、作者名、「7」	
北大植物園	10537	千歳市蘭越	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	小田伊三郎	作者名(17736とは別)、「7」	
北大植物園	10539	千歳市蘭越	KP	3線3舟	3線3舟	—	—	石田カムタチ	作者名(10537、17736とは別)、「7」	
北大植物園	17736	千歳市蘭越	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	小山田次郎太	作者名(10537とは別)、「7」	
北大植物園	10540	千歳市力マ 力	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	水本小判治		
北大植物園	10538	千歳市根志 越	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	小山田正造	作者名、「7」	
北大植物園	10534	千歳市(才 サツ)	KP	3線3舟	3線3舟	裏	△	亀井宇吉	シ・オサツウンクル	
胆振地方西部										
北大植物園	17664	白老	KP	3線1舟	3線1舟	表	点	森竹家	タケモリタケイチ作	

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
北大植物園	17737	白老	KP	3線1舟	3線1舟	裏	舌状削り	熊坂	熊坂家 満岡	
北大植物園	17772	白老	KP	3線5舟	3線5舟	裏	舌状削り	宮本家	ミヤモト作 満岡	
市立函館博物館	542	白老	IP	2線1舟	2線1舟	表	○			265
市立函館博物館	543	白老	IP	2線1舟	2線2舟	裏	△			266
市立函館博物館	544	白老	IP	5線8舟	5線8舟	裏	△		2線の両側に細かい3線	267
市立函館博物館	545	白老	IP	沈線(不鮮明)	3線舟5	裏	△			268
市立函館博物館	546	白老	IP	3線舟5	3線舟5	裏	△			269
市立函館博物館	547	白老	IP	3線3舟	3線舟5	裏	△		中間に刻印多数。前方から斜め3線中舟、3線中舟、5線、舟×、3線中舟、斜め5線	270
市立函館博物館	548	白老	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△		裏面に鉛筆のメモがあるが、不鮮明	271
市立函館博物館	549	白老	IP	3線舟5	3線舟5	裏	△			272
市立函館博物館	550	白老	IP	2線1舟	2線1山	裏	△			273
市立函館博物館	551	白老	IP	2線1山	2線3舟	貫通	○			274
市立函館博物館	552	白老	IP	3線1舟	3線舟5	裏	△			275
市立函館博物館	553	白老	IP	4線6舟	4線6舟	裏	△			276
市立函館博物館	554	白老	IP	3線3舟	3線3舟	裏	△			277
市立函館博物館	555	白老	IP	3線舟5	3線舟5	裏	△			278
市立函館博物館	556	白老	IP	2線3舟	3線舟5	裏	△			279
市立函館博物館	557	白老	IP	3線9舟	3線9舟	—	—			280
市立函館博物館	558	白老	IP	3線舟5	3線舟5	裏	△			281
市立函館博物館	559	白老	IP	4線2谷	3線2谷	裏	△			282
市立函館博物館	560	白老	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		中央に5線、その前後に斜めの3線	283
市立函館博物館	561	白老	IP	3線	3線	裏	△		7つのaspeが表面の模様になっている	284
噴火湾地方										
北大植物園	17698	室蘭市本輪西町ボロモイ	KP	2線3舟	2線5舟	表	△	坂下連吉	1935年 作者名、寄贈者名	
北大植物園	17718	虻田	KP	—	2線2舟	表	△	エラソウタロウ	キケバシュイ、作者名(17771とは別)「7」	

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考
北大植物園	17771	虹田	KP	2線	4線	表	丸	末部加屋吉	キケバシュイ、作者名(17718とは別)「7」
北大植物園	10142	有珠	IP	3線	3線	表	△	有珠アイヌ	名取
北大植物園	9531	長万部	KP	3線5舟	3線5舟	—	—	司馬力彌家	1935.3.18
北大植物園	17726	八雲	IP	3線5舟	3線5舟	表	△	椎久トイタレキ作	イチャラバイクバサイ、半月の平削り2対の他模様なし
北大植物園	9535	八雲遊楽部	KP	3線8舟	3線9舟	—	—	椎久トイタレク家	1934年
市立函館博物館	514	八雲	IP	4線3舟	—	—	—		237
市立函館博物館	515	八雲	IP	4線2山	3線5舟	—	—		238
市立函館博物館	516	八雲	IP	4線4舟	4線4舟	—	—		239
市立函館博物館	517	八雲	IP	3線5舟	3線5舟	—	—		240
種太地方									
北大植物園	9716	樺太	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		カバフト 犬飼哲夫氏寄贈
北大植物園	17782	樺太(対雁)	IP	1線1舟	3線3舟	—	—	chinobe	ikunishi
北大植物園	34624	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—	西川家	ナナカマド
北大植物園	34625	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		名取 装飾無し
市立函館博物館	1508	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		1
市立函館博物館	1509	樺太多蘭泊	IP	斜3線4舟	3線4舟	—	—		樹皮を全面に残す
市立函館博物館	1510	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		3
市立函館博物館	1511	樺太多蘭泊	IP	4線6舟	—	—	—		4
市立函館博物館	1512	樺太多蘭泊	IP	3線5舟	3線5舟	—	—		5
市立函館博物館	1513	樺太多蘭泊	IP	3線5舟	3線4舟	—	—	aspe様文様	6
市立函館博物館	1514	樺太多蘭泊	IP	—	—	—	—		7
市立函館博物館	1515	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	1線1舟	—	—		8
市立函館博物館	1516	樺太多蘭泊	IP	—	3線3舟	—	—		漆器の飾り金具転用
市立函館博物館	1517	樺太多蘭泊	IP	—	3線3舟	—	—		10
市立函館博物館	1518	樺太多蘭泊	IP	3線5舟	4線6舟	—	—		11
市立函館博物館	1519	樺太多蘭泊	IP	×	×	—	—		12

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
市立函館博物館	1520	樺太多蘭泊	IP	—	—	—	—		文様なし	13
市立函館博物館	1521	樺太多蘭泊	IP	×	×	—	—			14
市立函館博物館	1522	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			15
市立函館博物館	1523	樺太多蘭泊	IP	2線2舟	3線4舟	—	—		刻印のみ	16
市立函館博物館	1524	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線5舟	—	—			17
市立函館博物館	1525	樺太多蘭泊	IP	×	—	—	—			18
市立函館博物館	1526	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			19
市立函館博物館	1527	樺太多蘭泊	IP	3線5舟	3線5舟	—	—			20
市立函館博物館	1528	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		aspe様文様	21
市立函館博物館	1529	樺太多蘭泊	IP	—	—	—	—			22
市立函館博物館	1530	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			23
市立函館博物館	1531	樺太多蘭泊	IP	×	—	—	—			24
市立函館博物館	1532	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	—	—	—			25
市立函館博物館	1533	樺太多蘭泊	IP	2線2舟	×	—	—			26
市立函館博物館	1534	樺太多蘭泊	IP	3線5舟	×	—	—			27
市立函館博物館	1535	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			28
市立函館博物館	1536	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		aspe様文様	29
市立函館博物館	1537	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	—	—	—			30
市立函館博物館	1538	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線5舟	—	—			31
市立函館博物館	1539	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	—	—	—			32
市立函館博物館	1540	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			33
市立函館博物館	1541	樺太多蘭泊	IP	3線5舟	—	—	—			34
市立函館博物館	1542	樺太多蘭泊	IP	2線2舟	3線4舟	—	—			35
市立函館博物館	1543	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			36
市立函館博物館	1544	樺太多蘭泊	IP	3線3舟	3線3舟	—	—		3舟が互い違いに	37
市立函館博物館	1545	樺太多蘭泊	IP	2線2舟間 に×	2線2舟	—	—			38
市立函館博物館	1546	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			39
市立函館博物館	1547	樺太多蘭泊	IP	3線5舟	3線5舟	—	—			40

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
市立函館博物館	1548	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			41
市立函館博物館	1549	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			42
市立函館博物館	1550	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	—	—	—			43
市立函館博物館	1551	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			44
市立函館博物館	1552	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線5舟	—	—			45
市立函館博物館	1553	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			46
市立函館博物館	1554	樺太多蘭泊	IP	—	—	—	—			47
市立函館博物館	1555	樺太多蘭泊	IP	3線5舟	3線5舟	—	—	aspe様文様		48
市立函館博物館	1556	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			49
市立函館博物館	1557	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			50
市立函館博物館	1558	樺太多蘭泊	IP	3線5舟	3線5舟	—	—			51
市立函館博物館	1559	樺太多蘭泊	IP	3線5舟	3線5舟	—	—			52
市立函館博物館	1560	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	—	—	—	クマにemus		53
市立函館博物館	1561	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			54
市立函館博物館	1562	樺太多蘭泊	IP	—	—	—	—			55
市立函館博物館	1563	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			56
市立函館博物館	1564	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			57
市立函館博物館	1565	樺太多蘭泊	IP	2線4舟	—	—	—			58
市立函館博物館	1566	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			59
市立函館博物館	1567	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			60
市立函館博物館	1568	樺太多蘭泊	IP	3線5舟	3線5舟	—	—			61
市立函館博物館	1569	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—	文様なし 刻印のみ		62
市立函館博物館	1570	樺太多蘭泊	IP	3線3舟	3線3舟	—	—	半月の平削り3対半		63
市立函館博物館	1571	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			64
市立函館博物館	1572	樺太多蘭泊	IP	サンズイ	3線4舟	—	—			65
市立函館博物館	1573	樺太多蘭泊	IP	サンズイ	×	—	—			66
市立函館博物館	1574	樺太多蘭泊	IP	3線5舟	3線4舟	—	—			67
市立函館博物館	1575	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			68
市立函館博物館	1576	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			69
市立函館博物館	1577	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			71

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
市立函館博物館	1578	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			72
市立函館博物館	1579	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			73
市立函館博物館	1580	樺太多蘭泊	IP	2線2舟	2線2舟	—	—			74
市立函館博物館	1581	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	—	—	—			75
市立函館博物館	1582	樺太多蘭泊	IP	3線5舟	3線5舟	—	—			76
市立函館博物館	1583	樺太多蘭泊	IP	2線2舟	3線4舟	—	—			77
市立函館博物館	1584	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	破損	—	—			78
市立函館博物館	1585	樺太多蘭泊	IP	2線2舟	—	—	—			79
市立函館博物館	1586	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			80
市立函館博物館	1587	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			82
市立函館博物館	1588	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			83
市立函館博物館	1589	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			84
市立函館博物館	1590	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	5線9舟	—	—			85
市立函館博物館	1591	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			86
市立函館博物館	1592	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	1線1舟	—	—			87
市立函館博物館	1593	樺太多蘭泊	IP	3線5舟	3線5舟	—	—			88
市立函館博物館	1594	樺太多蘭泊	IP	5線7舟	3線4舟	—	—	先端akapari上に×		89
市立函館博物館	1595	樺太多蘭泊	IP	2線2舟	×	—	—			90
市立函館博物館	1596	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			91
市立函館博物館	1597	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			92
市立函館博物館	1598	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			93
市立函館博物館	1599	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			94
市立函館博物館	1600	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	—	—	—			95
市立函館博物館	1601	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	—	—	—	裏面にcaspe様印		96
市立函館博物館	1602	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			97
市立函館博物館	1603	樺太多蘭泊	IP	—	3線4舟	—	—			98
市立函館博物館	1604	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—	全体に樹皮が残る		99
市立函館博物館	1605	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	×	—	—			100
市立函館博物館	1606	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			102
市立函館博物館	1607	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			103

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
市立函館博物館	1608	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	斜3線4舟	—	—		aspe様文様	104
市立函館博物館	1609	樺太多蘭泊	IP	1線1舟	2線2舟	—	—		裏面先端にタの線刻、末端にaspe印	105
市立函館博物館	1610	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			106
市立函館博物館	1611	樺太多蘭泊	IP	3線5舟	—	—	—			107
市立函館博物館	1612	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	—	—	—			108
市立函館博物館	1613	樺太多蘭泊	IP	3線3舟	3線4舟	—	—			109
市立函館博物館	1614	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		裏面先端にタの線刻	110
市立函館博物館	1615	樺太多蘭泊	IP	3線5舟	3線5舟	—	—			111
市立函館博物館	1616	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			112
市立函館博物館	1617	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			113
市立函館博物館	1618	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線5舟	—	—			114
市立函館博物館	1619	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			115
市立函館博物館	1620	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			116
市立函館博物館	1621	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			117
市立函館博物館	1622	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			118
市立函館博物館	1623	樺太多蘭泊	IP	2線4舟	4線4舟+×	—	—			119
市立函館博物館	1624	樺太多蘭泊	IP	3線5舟	3線4舟	—	—		裏面先端にタの線刻	120
市立函館博物館	1625	樺太多蘭泊	IP	2線4舟	3線4舟	—	—			121
市立函館博物館	1626	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			122
市立函館博物館	1627	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			123
市立函館博物館	1628	樺太多蘭泊	IP	斜3線4舟	3線4舟	—	—			124
市立函館博物館	1629	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			125
市立函館博物館	1630	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			126
市立函館博物館	1631	樺太多蘭泊	IP	3線5舟	4線6舟	—	—			127
市立函館博物館	1632	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			128
市立函館博物館	1633	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			129
市立函館博物館	1634	樺太多蘭泊	IP	斜3線4舟	斜3線4舟	—	—			130
市立函館博物館	1635	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	—	—	—			131
市立函館博物館	1636	樺太多蘭泊	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			325
北大植物園	34661	樺太智来	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
北大植物園	34650	樺太登富津	IP	2線2舟	2線2舟	—	—		名取 装飾無し	
市立函館博物館	1637	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			132
市立函館博物館	1638	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		文様無し 刻印のみ	133
市立函館博物館	1639	樺太登富津	IP	4線2山	4線2山	—	—			134
市立函館博物館	1640	樺太登富津	IP	3線4舟	×	—	—			135
市立函館博物館	1641	樺太登富津	IP	3線4舟	斜2線2舟	—	—			136
市立函館博物館	1642	樺太登富津	IP	3線4舟	×	—	—			137
市立函館博物館	1643	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			138
市立函館博物館	1644	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			139
市立函館博物館	1645	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			140
市立函館博物館	1646	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		aspe様文様、裏面先端に線刻で「+」、それと向き合うように鉛筆で「-」、裏面aspe様印	141
市立函館博物館	1647	樺太登富津	IP	—	—	—	—		裏面に朱字で新間、白字で登富津	142
市立函館博物館	1648	樺太登富津	IP	3線4舟	—	表	▽			145
市立函館博物館	1649	樺太登富津	IP	3線4舟	—	—	—			146
市立函館博物館	1650	樺太登富津	IP	3線5舟	—	—	—			147
市立函館博物館	1651	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			148
市立函館博物館	1652	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			149
市立函館博物館	1653	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			150
市立函館博物館	1654	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			151
市立函館博物館	1655	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			152
市立函館博物館	1656	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			154
市立函館博物館	1657	樺太登富津	IP	3線4舟	×	—	—			155
市立函館博物館	1658	樺太登富津	IP	3線4舟	—	—	—			156
市立函館博物館	1659	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			157
市立函館博物館	1660	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			158
市立函館博物館	1661	樺太登富津	IP	1線3舟	2線6舟	—	—			159
市立函館博物館	1662	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			160
市立函館博物館	1663	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	裏	△			161

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
市立函館博物館	1664	樺太登富津	IP	3線5舟	3線5舟	—	—			162
市立函館博物館	1665	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			163
市立函館博物館	1666	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			164
市立函館博物館	1667	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		先端裏面にペンで「T」	165
市立函館博物館	1668	樺太登富津	IP	3線4舟	×	—	—			166
市立函館博物館	1669	樺太登富津	IP	4線7舟	5線6舟	—	—		先端裏面に線刻で「T」	167
市立函館博物館	1670	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			168
市立函館博物館	1671	樺太登富津	IP	3線4舟	—	—	—			169
市立函館博物館	1672	樺太登富津	IP	3線4舟	3線3舟	—	—		裏面先端中央に鉛筆で「T」、右に線刻で「T」	170
市立函館博物館	1673	樺太登富津	IP	4線6舟	4線6舟	—	—			171
市立函館博物館	1674	樺太登富津	IP	3線4舟	斜3線4舟	—	—		aspe様文様	172
市立函館博物館	1675	樺太登富津	IP	3線4舟	斜3線4舟	—	—		裏面先端に鉛筆で「T」	173
市立函館博物館	1676	樺太登富津	IP	2線2舟	2線2舟	—	—			174
市立函館博物館	1677	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		裏面先端にペンで「T」	175
市立函館博物館	1678	樺太登富津	IP	3線4舟	—	—	—			176
市立函館博物館	1679	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			177
市立函館博物館	1680	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		裏面先端に線刻で「T」	178
市立函館博物館	1681	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			179
市立函館博物館	1682	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			180
市立函館博物館	1683	樺太登富津	IP	—	—	—	—			181
市立函館博物館	1684	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		裏面末端にペンで「T」	182
市立函館博物館	1685	樺太登富津	IP	3線4舟	—	—	—			183
市立函館博物館	1686	樺太登富津	IP	3線4舟	4線5舟	—	—		先端裏面に鉛筆で「T」	184
市立函館博物館	1687	樺太登富津	IP	3線4舟	×	—	—			185
市立函館博物館	1688	樺太登富津	IP	3線4舟	—	—	—		文様無し、刻印のみ、先端裏面に線刻で「T」	186
市立函館博物館	1689	樺太登富津	IP	3線5舟	4線6舟	—	—			187
市立函館博物館	1690	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		裏面先端にペン？で「T」	188
市立函館博物館	1691	樺太登富津	IP	3線5舟	斜3線4舟	—	—		裏面末端にペン？で「T」	189

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
市立函館博物館	1692	樺太登富津	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		裏面先端および末端にペン？で「T」	190
市立函館博物館	1693	樺太落帆	IP	2線2舟	—	—	—		ラベルに東海岸オッヂホの記載	191
市立函館博物館	1694	樺太落帆	IP	3線4舟	—	—	—		ラベルにオッヂホの記載	192
市立函館博物館	1695	樺太落帆	IP	2線+×	—	—	—		ラベルに落帆の記載	193
市立函館博物館	1696	樺太落帆	IP	2線+×	3線4舟	—	—		クマ送りの飾り、玉刀等の浮彫、ラベルに落帆の記載	194
市立函館博物館	1697	樺太落帆	IP	1線1舟	3線4舟	—	—		ラベルに東海岸オッヂホの記載	195
市立函館博物館	1698	樺太落帆	IP	3線4舟	—	—	—		ラベルに落帆の記載	196
市立函館博物館	1699	樺太落帆	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		ラベルにオッヂホの記載	197
市立函館博物館	1700	樺太落帆	IP	×	—	—	—		ラベルにオッヂホの記載	198
市立函館博物館	1701	樺太落帆	IP	2線2舟	—	—	—		ラベルに東海岸オッヂホの記載	199
市立函館博物館	1702	樺太落帆	IP	2線2舟	1線1舟+平削 レ	—	—		ラベルにオチホの記載	200
市立函館博物館	1703	樺太落帆	IP	3線3舟	—	—	—		ラベルに落帆の記載	201
市立函館博物館	1704	樺太落帆	IP	2線2舟	—	—	—			202
市立函館博物館	1705	樺太落帆	IP	2線6舟	—	—	—		ラベルに落帆の記載	203
市立函館博物館	1706	樺太落帆	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		ラベルにオッヂホの記載	204
市立函館博物館	1707	樺太落帆	IP	斜線+3 線	2線	—	—		権の意匠、ラベルにオッヂホの記載	205
市立函館博物館	1708	樺太落帆	IP	4線6舟	4線6舟	—	—		ラベルにオッヂホの記載	206
市立函館博物館	1709	樺太落帆	IP	2線2舟	—	—	—		ラベルに東海岸オッヂホの記載	207
市立函館博物館	1710	樺太落帆	IP	4線6舟	—	—	—		ラベルに落帆の記載	208
市立函館博物館	1711	樺太落帆	IP	3線4舟	3線4舟	—	—		ラベルに東海岸オッヂホの記載	209
市立函館博物館	1712	樺太落帆	IP	3線5舟	2線3舟	—	—		裏面先端に鉛筆で「落」、ラベルに落帆	210
市立函館博物館	1713	樺太落帆	IP	5線5舟	4線4舟	—	—		ラベルに落帆の記載	211
市立函館博物館	1714	樺太落帆	IP	2線4舟	—	—	—		ラベルに東海岸オッヂホの記載	212
市立函館博物館	1715	樺太落帆	IP	三日月	三日月	—	—		裏面先端に鉛筆で「落」、ラベルにオッヂホの記載	213
市立函館博物館	1716	樺太落帆	IP	2線2舟	三日月	—	—		ラベルにオッヂホの記載	214
市立函館博物館	1717	樺太落帆	IP	—	—	—	—		裏面先端に鉛筆で「落」？、ラベルにオッヂホの記載	215

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
市立函館博物館	1718	樺太白浜	IP	三日月+ x	—	—	—		ラベルにシラハマの記載	216
市立函館博物館	1719	樺太白浜	IP	4線6舟	—	—	—		ラベルに東海岸シラハマの記載	217
市立函館博物館	1720	樺太白浜	IP	三日月+ 線2舟	3線3舟	—	—		ラベルに白浜の記載	218
市立函館博物館	1721	樺太白浜	IP	4線6舟	—	—	—		ラベルにシラハマの記載	219
市立函館博物館	1722	樺太白浜	IP	2線3舟	—	—	—		ラベルにシラハマの記載	220
市立函館博物館	1723	樺太白浜	IP	3線4舟	x	—	—		ラベルにシラハマの記載	221
市立函館博物館	1724	樺太白浜	IP	3線2舟 ¹ 山	2線2舟	—	—		ラベルに東海岸シラハマの記載	222
市立函館博物館	1725	樺太白浜	IP	2線2舟	1線2舟	—	—		ラベルにシラハマの記載	223
市立函館博物館	1726	樺太白浜	IP	3線4舟	x	—	—		ラベルにシラハマの記載	224
市立函館博物館	1727	樺太白浜	IP	3線4舟	2線3舟	—	—		ラベルにシラハマの記載	225
市立函館博物館	1728	樺太白浜	IP	2線	—	—	—		ラベルにシラハマの記載	226
市立函館博物館	1729	樺太白浜	IP	2線+ x	1線	—	—		裏面先端右にペン(?)で「ト」、ラベルに白浜の記載	227
市立函館博物館	1730	樺太多来加	IP	4線	2線	—	—		ラベルに東海岸タライカの記載	229
市立函館博物館	1731	樺太多来加	IP	3線5舟	—	—	—		裏面先端に鉛筆で「タ」、ラベルにタライカの記載	230
市立函館博物館	1732	樺太多来加	IP	2線2舟	2線2舟	—	—		ラベルに東海岸タライカの記載	231
市立函館博物館	1733	樺太多来加	IP	半月+ 2 線2舟	2線2舟	—	—		ラベルにタライカの記載	232
市立函館博物館	1734	樺太多来加	IP	2線2舟	2線2舟	—	—		ラベルにタライカの記載	233
市立函館博物館	1735	樺太多来加	IP	—	2線3舟	—	—		文様無し、ラベルにタライカの記載	234
市立函館博物館	1736	樺太多来加	IP	—	—	—	—		ラベルにタライカの記載	235
市立函館博物館	1737	樺太多来加	IP	3線4舟	3線5舟	—	—		ラベルにタライカの記載	236
市立函館博物館	1738	樺太新間	IP	—	—	—	—		ラベルに樺太新間、本体にトウツの記載	143
市立函館博物館	1739	樺太新間	IP	2線3舟	3線4舟	—	—		本体にトウツの記載、ラベルに「新問No.144 48年8月28日馬場氏訂正」の記載	144
收集地不明										
北大植物園	17756	不明	IP	3線3舟	3線3舟	表	窪み		文様無し、裏面aspe印	
北大植物園	17780	不明	IP	3線3舟	3線3舟	—	—		10160の摸刻？ Itokpalは異なる。	
北大植物園	32596	不明	KP	3線3舟	3線3舟	—	—			

収蔵館	No.	地域	分類	前方印	後方印	位置	形状		備考	
北大植物園	32597	不明		3線1舟	3線1舟	—	—			
北大植物園	32906	不明	IP	3線3舟	4線1山	裏	△			
北大植物園	34679	不明	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			
北大植物園	10160	不明	IP	3線4舟	3線4舟	裏	▽	17780の原資料? Itokpaは異なる。		
北大植物園	10176	不明	IP	3線3舟	3線3舟	裏	▽	17758の原資料? Itokpa、裏面印も同じ		
新ひだか町博物館	9730	—	IP	7線1舟	10線2舟	裏	△			
新ひだか町博物館	9726	—	IP	6線2舟	3線(沈線のみ)	裏	△			
市立函館博物館	585	不明	IP	2線舟4	2線舟4	貫通	△横 に2つ			308
市立函館博物館	588	不明	IP	3線3舟	3線3舟	裏	▽			311
市立函館博物館	590	不明	IP	3線5舟	3線5舟	表	▽		前方2か所にテとエ	313
市立函館博物館	591	不明	IP	3線3舟	3線3舟	—	—			314
市立函館博物館	592	不明	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			315
市立函館博物館	593	不明	IP	2線2舟	2線2舟	裏	▽			316
市立函館博物館	595	不明	IP	7線2山	8線3山	—	—			318
市立函館博物館	596	不明	IP	2線3舟	3線4舟	—	—			319
市立函館博物館	597	不明	IP	3線4舟	3線4舟	—	—			320
市立函館博物館	598	不明	IP	3線5舟	—	—	—			321
市立函館博物館	599	不明	IP	4線4舟	3線3舟	裏	△			322
市立函館博物館	600	不明	IP	3線4舟	—	裏	△			323
市立函館博物館	601	不明	IP	2線2舟	—	—	—			324